
「教育デザイン研究」刊行に寄せて

地域教育界との交流から高まる「教育デザイン研究」

教育学研究科長・教育人間科学部長

高木 まさき

「教育デザイン研究」第6号の刊行に際しまして、一言ご挨拶を申し上げます。

本誌は、平成22年3月に創刊され、第5号から横浜国立大学教育学研究科を発行元とすることになりました。その理由については前号にも記しましたが、地域教育界との関わりを重視しつつ、近未来を見据えた実践的な教育研究をめざす「教育デザイン研究」の理念をより鮮明に打ち出すとともに、その研究成果を地域に発信することが最大の理由でした。

本号では、そうした理念のもと、地域の教育関係機関からも多数ご寄稿いただいております。神奈川県教育委員会、横浜市教育委員会、川崎市教育委員会、相模原市教育委員会の皆様には、それぞれの地域の教育課題やお取組を踏まえつつ、教員養成に対するご要望などをご寄稿いただいております。「教育デザイン研究」は、単に本学とそれぞれの地域教育界との単線的な交流のみではなく、本学或いは本誌等を通して、県内各地域教育界が相互に交流していただくハブとしての機能も視野に入れております。

また一方で、当然ではございますが、本学における教員養成に関わる取組の一部も掲載しております。本号では、近年求められつつある教員養成への様々な課題を踏まえた本学教員養成の各種取組や学生の意識調査等を紹介しつつ、地域の教育関係者の皆様方に、変容著しい教員養成の「現場」を知っていただければと思います。

さらに地域の教育界から派遣いただいている教員の皆様に支えられている本学附属学校の取組なども紹介しております。附属学校の主たる任務は、未来の教員たる本学学生の教育実習の指導や本学の教育研究への支援などですが、それらとともに国から託された先導的な研究や、附属学校教員の各地域・学校への派遣事業なども盛んで、附属学校の教育研究の成果が地域に還元されていることもご理解いただけるものと存じます。

本学教育学研究科は、従来の教科等による枠を廃して「教育実践専攻1専攻」となっておりますが、その専攻名に掲げる〈実践〉とは、その時点での即効性のみにとらわれずに、「種々の複雑な問題・課題を抱えた状況に対し、理論的かつ実際的に関わって状況そのものを変革するとともに、自らも変わろうとする柔軟で創造的な営みである」ことをめざそうとするものです。中央教育審議会等において「学び続ける教員像」が議論されていますが、本研究科が育成しようとしているのは、「理論的かつ実際的に関わって状況そのものを変革する」能力を有するとともに「自らも変わろうとする柔軟で創造的な」人材であり、まさに「学び続ける教員」の姿と重なります。そのためにも本学の教育研究活動は地域の学校や教育機関との連携協力関係が不可欠と考えます。

本号を契機として、双方向で多様な交流関係がさらに充実したものとなることを祈念しております。